

産大レクチャー

●●● ア・ラ・カルト

〈197〉

本学では、1・2年次は基礎ゼミナールに所属し、3・4年次は専門ゼミナールに参加します。ゼミ担当教員とのキャリア面談を通じて、学生の就職意識や就活の進捗（ちよく）状況を把握しています。就職委員会や就職課の教職員と情報を共有し、学生個々のキャリアポートフォリオを作成しています。

これにより、3年次の就活本番に備えて、学生の長所や短所、面接でのアピールポイントなどを明確に把握しています。教職員と学生は、授業や就活支援の場で常に対面でコミュニケーションを図る環境にあります。このアプローチが本学の最大の強みであり、2023年3月卒業生を含め、10年連続で就職率100

%（希望者へース）を達成するのには貢献しています。本学では、日常的にキャリア教育に力を注いでおり、授業科目として「キャリアデザインI・

II・III」を講義と演習の両方で設定しています。そのうち「キャリアデザインI・II」は全学生在履修しなければならない「指定科目」となっています。キャリアデザイン

10年連続就職率100%

橋本 次郎

る3年次の「キャリアデザインIII」は選択科目ですが、就職課と連携して行われ、インターンシップの準備や履歴書・エントリーシート作成方法、面接対策など、就活

を3年次の12月に開催しています。この講座は、模擬面接やグループディスカッション、先輩の就活体験談を聞くなどの内容が含まれており、さらにはオフィスを想定した

本学では資格取得対策講座も提供しており、EJ経済学検定、経営学検定や簿記、AI活用人材プログラム、ITパスポート、MOS検定などさまざまな講座があります。特定の資格・検定に

合格するとうち内または1万円の奨学金を支給し、該当科目の単位も認定します。個々のやる気を尊重し、大学卒業時に満足できる進路選択をサポートしています。近年上記に加え24時間視聴可能なWEB受講によるFP（ファイナンシャル・プランニング技能士）検定対策講座や公務員試験対策講座など、さまざまなプログラムを提供しています。

（教授）
Ⅱ 毎月1回掲載Ⅱ

I・IIでは、SPIの練習だけでなく、新潟県内に就職した卒業生を招いてのディスカッションなども行っています。キャリア形成の最終段階とな

に必要な実践的な知識と経験を身につけることができます。また、本学の伝統的な就職支援行事として、「就職活動集対策講座」

電話の対応方法を練習する機会も提供しています。非常に充実したプログラムであり、参加者の中には早期に内定を獲得する者も多く見られ、周囲の学生にも良い刺激を与えるなど、高い効果を上げています。

電話の対応方法を練習する機会も提供しています。非常に充実したプログラムであり、参加者の中には早期に内定を獲得する者も多く見られ、周囲の学生にも良い刺激を与えるなど、高い効果を上げています。

国際日本学シンポジウム

基調講演と研究発表

産大で23日

日本や米国、中国、韓国
の優れた日本学研究者の4
氏を対面またはオンライン
で結び、新潟産大の国際日
本学シンポジウムが23日午
後1時から、同大で開催さ
れる。テーマは「国際日本学
の現在とGlobal History
のなかでの日本研究の可能性」。参加無
料。対面とオンラインのハ
イブリットで申し込みを受
け付けている。

シンポジウムは大学と地
域の連携により、国際日本
学について最先端の動向と
研究状況を大学教職員、学
生、市民に広く紹介するこ
とが目的。ユーラシア財団
from Asiaの助成
事業。当日は基調講演、研

究発表1は対面で、同2・
3はオンラインで行われ
る。

このうち、基調講演の講
師は稲賀繁美・京都精華大
学国際文化学部特任教授。
京都の国際日本文化研究セ
ンターで長年国際日本学を
研究してきた。サントリー
学芸賞など日本、フランス
で六つの学術賞を受けた気
鋭の人文学者だ。講演のテ
ーマは「海賊史観からみた
アジア交易史の500年」。
国際日本学の道しるべ」。

テーマは「弘知法印御伝記
と大学生英語放歌舞伎公演
を作るチャレンジと喜び」。
同2は金敷・中国北京大
学日本語学教授の「中国

研究発表1は、日本文学
研究の第一人者のドナルド
・キーンさん（1932～
2019）の教え子で米ボ
ートランド州立大学のロー
レンス・コミンズ名誉教授。

における日本研究と日本文
化研究の現状と課題を巡っ
て」。同3は崔光華・韓国
新羅大学名誉教授の「万葉
集の韓国語訳と古代韓国と
のつながりを中心に」。発
表終了後の質疑応答、全体
討論の司会は蓮池薫・新潟
産大特任教授。終了予定は
5時5分。

参加申し込みはQRコー
ド別掲から。締め切り



は18日午後5時。問い合わ
せは新潟産大地域連携セン
ター（電話24・8441、
電子メールpenke@adn
s.ac.jp）へ。

「新治大学」 地域に学ぶ 地域を学ぶ —— 実践活動レポート ——

地域貢献の 学生を表彰

産大では毎年2月に地域貢献活動が顕著な学生に贈る地域連携活動賞の授与を行っている。

本学は「地域社会や企業を主体的に支える人材の育成」を旨とし、「地域に学び、地域をおこす」という旗印のもと、地域実践教育を展開してきた。

今年度も3名の個人と4つの団体の活動を称え、地域連携活動賞を授

与した。

授与式で権田恭子地域連携センター長は「ここ数年間、新型コロナウイルス禍による地域社会の変化を経験してきたが、自身が地域で考え、行動してきたことに誇りを持ち、新年度以降の取り組みに活（い）かしてほしい」と今後のさらなる活躍に期待を寄せる。

受賞者の一人である後藤麗玖さん（4年）はまちかど研究室の活動や学外団体との共同事業、地域活動発表会などに取り組んできた。

「地域活動の結果が形となりうれしいです。継続することに意義があるので、次年度以降も産大生の活動に期待しています」と受賞の喜びを語る。

本学の地域活動はフィールドワークによる地域連携、学生による地域イベントの参加やボランティア活動、地元教育機関や自治体などへの講師派遣など多岐にわたる。こうした地域活動を通して学生自身が「地域における個の役割」を学びながら、課題を解決する力を実践的に身につけてほしいと願っている。

受賞者は次の通り。
▽個人 奥野飛龍（4年）、ムハンマド・アブドルカリム・モントナロ（4年）、田中真由（4

年）
▽団体 権田ゼミ（後藤麗玖・池嶋菜央・飯島康貴 114年）、サッカー部（岡崎壮吾・田原怜央 113年）、書道部、じよんのび夏祭り実行委員会（佐藤風紗・山根龍馬 113年、今村奈津希・本田翔大 112年）
（同大学地域連携センター）





若者の地元就職を促進し、進路協議会、ハローワーク柏崎が「2025柏崎・刈羽」として柏崎職安管内雇用促

企業説明に学生熱心

ハローワーク 地元就職促進目指し

・出雲崎等企業説明会」を市民プラザで開いた。建設業、金融業など柏崎管内に

本社や事業所がある42企業・団体が参加。一方、訪れた学生ら約40人は各ブースを回り、理解を深めた。

説明会は、1月1日の能登半島地震被害でホールが全面使用できず、企業ブースを3室に分散し、7日に開いた。ハローワーク柏崎の桜井政和所長は「自社の魅力・技術などをアピールして、若者に未来へのビジョンを示してもらいたい」と参加企業に呼び掛

けた。各ブースでは、採用担当42企業・団体がブースを設けた大学生向けの企業説明会「市民プラザ

者らが会社の概要や実績、自身の働き方などを紹介。学生は熱心にメモを取りながら、耳を傾けた。上越市出身の新潟産大3年・石黒禪さんは「地元以外なら柏崎で検討中。社宅や福利厚生など、いろいろな企業の話が聞けてよかった」、市内出身で長岡市内の専門学

校1年・滝沢有理さんは「柏崎が大好き。公務員志望だが、市のために働ける民間企業にも興味が出てきた」と視野を広げた。

学生に対応し、特別養護老人ホームに仕りの里の松川麻美さんは「ICT化が進んで心身の負担は減り、休暇も取りやすい。これまでの業界イメージを払拭できたらしい」。石塚組の石塚佳史社長は「人手不足で仕事を受注できない状況もある。地元で貢献できる仕事として、若者・保護者に理解してもらえたらうれしい」と期待を込めた。

市民文化誌「風のいろ」

第17号「柏崎音協」の歴史も文化協会

柏崎文化協会（山田明彦会長）は柏崎市民文化誌「風のいろ」17号を発行した。同協会の柱となる事業の一つで、民間の文化団体が発行する文化誌としては全国でもまれで異色な存在。「子どもから大人まで楽しめる」をモットーに編集した。

巻頭を飾る「時の人」は市内西本町1出身で作曲家の

小林弘人さん。現在、東京藝術大学特任准教授でふるさと讃歌「柏崎の思い出」の作曲者。映画伴奏者としての知られざる顔もほやほや。

「柏崎刈羽の歴史文化」では「柏崎音楽協会の25年の歩み」を特集した。同会は1998年に発足。以来25年間、鑑賞例会やプレイヤースタッフなどのコンサートを開いてきた。「震災

復興祈念柏崎第九演奏会」「長寛と貞心」「柏崎讃歌（さんか）柏崎の思い出」

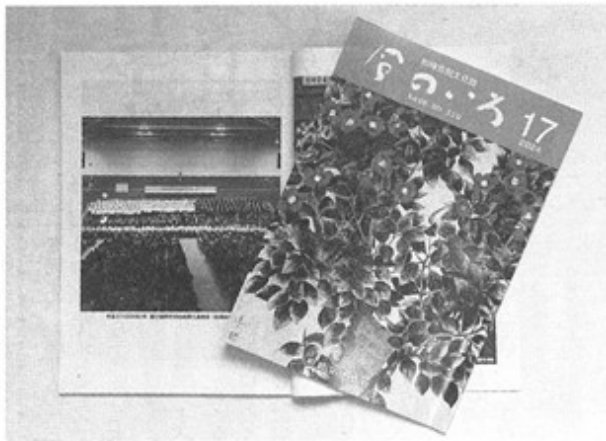
など数々の演奏会を歴史に刻み、2023年に活動の幕を下ろした。

「柏崎刈羽の文化」では「開館十周年を迎えた『ドナルド・キーン・センター 柏崎』」（高橋耕さん）萩原朔太郎詩碑建立の周辺」（阿部松夫さん）がつづら

「これまで、これからの柏崎・刈羽」では、内橋賢悟・新潟産大准教授の「自らの歴史に父の姿を重ね」、池田英俊・工科大教員の「あの山の向こう」。春口敏栄さんの「彫刻師 小川由廣を探して」、室賀美津雄さんの「豊かな音楽表現を求めて」の寄稿もある。

連載の「かしわさき・かりわの民話」は15話を数える。市民文芸作品には随想、詩、短歌、俳句が掲載された。

表紙絵は加藤通子さんの日本画作品「椿」。表紙裏は小林千枝さんのガラス工芸作品。B5判84頁、発行は850部。価格は1冊千円（消費税込み）。取り扱いは文化書院、尚文館、わたじん書店、市役所売店。問い合わせは同協会事務局（電話32・2190）へ。



柏崎文化協会が出版した市民文化誌「風のいろ」17号



培った力 未来のために

産大卒業式 98人が新たな船出

新潟産大（梅比呂真史学）開かれた卒業式に98人が参加。学位記の授与式は経済経
長の菊池空英式・学位 大学院修了生4人が新しい 学一賞学科、文化経済学科、院
授与式が16日、同大講堂で 人生に期待を膨らませ、学

生の代表者が人が受け取った。梅比呂真史は式辞で「ランソの詩人アルチュール・ランボウの言葉「私は一個の他者である」をほなむけに贈り、「自分の行動・考え方・性格などを別の立場や別の視点から見ると、課題解決につながる」と呼び掛け。「皆さんがこの大学で培った力を存分に発揮し、それぞれの進路において自分の夢を実現し、素晴らしい未来を切り拓くことを祈っている」と期待を込めた。

在学生代表の3年・本田翔大さんは「大きな壁や困難に直面した時は、学生生活で出会った友人、こころ相通で過ごした日々を思い出してください。明日への一歩を踏み出す力となるはず。私たちが学生は先輩方が築き上げてきた大学がより発展していけるよう尽力していき」と語り出した。

卒業生代表の杉田聖時さんは「支えてくれた全ての人に感謝し、今後も世のため人のために尽くし、さらなる成長を目指して」と決意を表明した。

卒業生の就職内定率は89・4%で前年の97・6%を8・2倍下回った。学長賞、功労賞は次の通り。
学長賞Ⅱ 吉川一夫、池嶋 菜央Ⅲ 功労賞Ⅱ 藤井敬聖、山村優明、小柳翔Ⅲ以上ス ポーツⅡ、ムハマド・アブドル・カリム・モントナロⅢ 国際交流、田中真由

り、「支えてくれた全ての人に感謝し、今後も世のため人のために尽くし、さらなる成長を目指して」と決意を表明した。

後藤勝致、池嶋菜央、飯島康貴Ⅲ以上地域連携Ⅱ

98人が新たな道へと巣立った新潟産大の卒業式Ⅱ 16日午前、同大講堂

産大・小林教授 BS11に出演

23日放送

新潟産大の小林健彦教授が23日午後8時〜9時に、BS11で放送の番組「偉人・敗北からの教訓」に出演する。小林教授は市内のえんま通り出身。第37回のテーマは「上杉景勝・北の関ヶ原での撤退戦」。

この番組は、偉人たちの栄光ではなく、失敗や、しくじりに焦点を当てた人物伝。過去の失敗を切り口として偉人の人物像に迫り、未来を生きるためのヒントを探る大人のための歴史情報番組で、偉人たちの失敗を徹底検証する。敗者の「正義」や「言い分」を踏まえつつ、ゆかりの地に残された史料や古文書、さまざまな真解をもとに、失敗を学びに変えて行く。今回は豊臣大名の上杉景勝を取り上げ、解説する。

番組構成は次の通り。

失敗の伏線⇨豊臣秀吉に見込まれた武勇と若さ⇨豊臣五大老へ⇨失

敗の瞬間⇨徳川家康の思惑にまんまとハマった愚直すぎる男⇨失敗がもたらしたもの⇨明治維新まで生き残った武辺者の誇り

【新治産大ニュース】 地域に学び 地域を学ぶ

— 実践活動レポート —

能登半島地震 多くを学ぶ

新潟産業大学国際センターは地域のさまざまな機関と連携し、柏崎市民の国際理解促進や市内に在住している外国人との交流支援事業を行っている。

先日、柏崎地域国際化協会が主催する言語文化サポーターの会議が行われた。同サポーターは、国際交流イベントの企画・運営や外国人の生活支

援に協力し、ボランティアとして活動している。多様な国々の方もサポーターとして登録していることから、日本人のことは、文化の架け橋のような役割を担っている。

この日の会議では、元日に発生した能登半島地震の際に、外国人の視点から困ったことや必要な情報をどこから得ていたかなど、災害時の対応についての話し合いが行われた。

本学からは留学生のマンダさん（2年・中国）

が参加。地震発生時は車で市外に向かう途中だったが、すぐに柏崎へ戻ってきた。中国で生活していた頃は今回のような揺れの強い地震を経験したことがなかったという。

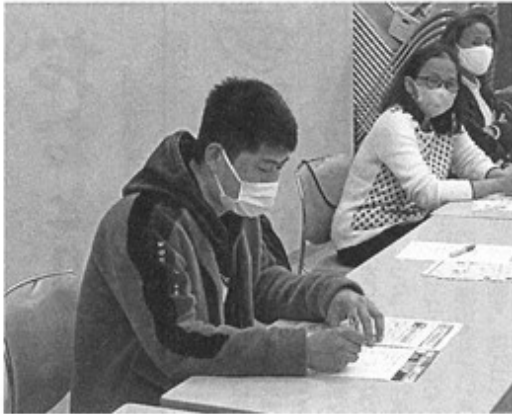
マンダさんは「地震の多い日本で生活していくには、災害に対する備えや対策が不可欠であることが今回の経験でわかりました。特に近所の方たちは普段から交流をするこにより、緊急時の連携体制が取れると思います。被災地はまた大変な状況ですが、一日も早い復興を願っています」と今回の地震で得た教訓を振り返った。

同協会の山本睦子事務局長は「サポーター会議では、皆さんの実体験を

うかがうことができた。今後の活動に生かしたい。交流活動はもちろん、災害時や防災の取り組みこそ、サポーターの皆さんの協力とアイデアが必要だ。留学生の皆さんも頼りにしている」と、

感謝と期待を込めて話していた。

柏崎市には現在、89名の外国人の方が暮らしている。多文化共生のまちづくり推進に、本学も貢献できれば幸いだ。（同大学国際センター）



人にやさしいまちづくり賞

サポセン柏崎が表彰

県主催 UT活動など高く評価



県の「人にやさしいまちづくり賞」の表彰式が行われ、県内3団体が選ばれた。表彰は施設、活動の2部門。柏崎関係では、活動部門で

特定非営利活動法人・地域活動サポーターセンター柏崎（石坂泰男理事長）が行うユニバーサルツーリズム（UT）センターなどの地道

な取り組みが評価された。この表彰は高齢者、障がい者などをはじめ、全ての人が自由に活動でき、社会参加できるよう率先して福祉のまちづくりのために取り組んでいる団体などが対象。これを通し、県民の意識高揚を目指す。

19年度から活動を始めた。新潟産大と連携した「人にやさしいまちづくり」活動、障がい当事者団体と

の「バリアフリーのまちづくり」に向けた実態調査情報発信に取り組んできた。この間、体の不自由な人の希望、思いをかなえたいとの願いを込めた「旅サポーター養成講座」の開催と、観光施設などでサポーターによる介助支援。バリアフリー調査の結果、柏崎版サイトとして、延べ約100施設をウェブ上で公開した。また23年度には授乳室、ベビーベッド有無の視点が

ら、市の子育て関連サイト「すくすくネット」ともリンクした。表彰の審査は高齢者、障がい者、妊婦や子ども連れらがまちに出て活動することを促したり、地域の人々とふれあう機会の増加が見込まれたりすること、継続性、地域への浸透などの点から、書類とプレゼンテーションで選考された。表彰式は11日、県庁で行われた。受賞に当たって、同センターの押見敏昭コーディネーター（58）は「柏崎だけでなく、県内で関連講座を開くなど視点が広がりが評価されたものと思う」と喜ぶ。さらに「新年度から障がい者差別解消法で民間事業者

も合理的配慮が義務化になることから、バリアフリー情報提供の拡充が急務」とし、「やさしいお店（仮称）in柏崎」認定マーク作成・配布などの各種事業を計画。「高齢者、障がい者だけでなく、子育て支援にも役立つ情報提供をしていきたい」と話した。

UTは「高齢になっても障がいがあっても旅に出よう」を趣旨に全国展開の取り組み。県内では数少ない中で、同センターでは20

県の「人にやさしいまちづくり賞」の活動部門で表彰された地域活動サポーターセンター柏崎のユニバーサルツーリズムセンター

ら、市の子育て関連サイト「すくすくネット」ともリンクした。表彰の審査は高齢者、障がい者、妊婦や子ども連れらがまちに出て活動することを促したり、地域の人々とふれあう機会の増加が見込まれたりすること、継続性、地域への浸透などの点から、書類とプレゼンテーションで選考された。表彰式は11日、県庁で行われた。受賞に当たって、同センターの押見敏昭コーディネーター（58）は「柏崎だけでなく、県内で関連講座を開くなど視点が広がりが評価されたものと思う」と喜ぶ。さらに「新年度から障がい者差別解消法で民間事業者

も合理的配慮が義務化になることから、バリアフリー情報提供の拡充が急務」とし、「やさしいお店（仮称）in柏崎」認定マーク作成・配布などの各種事業を計画。「高齢者、障がい者だけでなく、子育て支援にも役立つ情報提供をしていきたい」と話した。

工科大皮切りに

4月2日から 柏刈の入学式

柏崎刈羽では4月2日の新潟工科大を皮切りに高校、特別支援学校などの入学式が続く。多くは5・8日に集中している。

市内の小学校は8日と9日。8日は6小学校、9日は11小学校。中学校はいずれも8日。詳しい日程は後日掲載。刈羽小は8日午前

10時40分、刈羽中は8日午後2時開式。

各校の日程と開式時間は次の通り。

新潟工科大 2日午前10時
▽新潟産大 3日午前10時
▽産大附属 5日午後1時半
▽柏工 5日午後1時45分
▽新潟病院附属看護学

校 5日午後1時半
▽柏高 8日午後1時
▽常盤 8日午後1時10分
▽柏崎総合 8日午後1時半
▽柏崎翔洋 8日午後1時半
▽柏崎特別支援 8日午前10時15分
▽はまなす特別支援 9日午前9時50分